

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 87号

2014/03/24 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも週半ばから下落するも、先週比では上昇

① 最高：5月 LDN 市場£ 1,896 /5月 NY 市場\$3,030 (3/19,17) 先週比 **LDN + £ 18 / NY + \$24**

② 最低：5月 LDN 市場£ 1,879 /5月 NY 市場\$2,957 (3/21) 先週比 **LDN + £ 4 / NY ± 0**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£ 20 (傾向↑) / NY 市場\$73 (傾向↑)

週内建玉推移：LDN 市場 273,731 枚(3/14 終了時) ⇒ 273,272 枚 (3/20 終了時) **-459 枚**

NY 市場 216,972 枚(3/14 終了時) ⇒ 217,942 枚 (3/20 終了時) **+970 枚**

【3月17日(月)】ニューヨーク反発＝ロンドン続伸

ニューヨーク市場は反発。5月きりは38ドル(1.3%)高の3030ドルで終了した。一時は2年半ぶりの高値となる3039ドルまで上昇した。トムソン・ロイターの暫定集計によると、出来高は約1万5000枚と少なく、250日平均を30%下回った。ロンドン市場は続伸。5月きりは20ポンド(1%)高の1898ポンドで終了した。

【3月18日(火)】ニューヨーク反落＝ロンドン横ばい

ニューヨーク市場のココア先物は、利益確定売りに反落。5月きりは16ドル(0.5%)安の3014ドルで引けた。前日は2年半ぶり高値の3039ドルまで値を上げた。RJOフューチャーズ(シカゴ)のブローカー、ヘクター・ガルバン氏は「前日の高値を超えられなかったことで、利益確定売りが一部で出た」と指摘した。ロンドン市場の7月きりは、変わらずの1893ポンドで引けた。ポンド安を受けた買いに押し上げられ、一時は1896ポンドと、2番ぎりとしては2011年9月以来の高値を付けた。

【3月19日(水)】ニューヨーク反発＝ロンドン上昇

ニューヨーク市場のココア先物は堅調。5月きりは反発し、11ドル(0.4%)高の3025ドルで引けた。17日に付けた2年半ぶりの高値の3039ドルをやや下回る水準で推移している。太平洋赤道域東部で海面水温が平年より高くなる「エルニーニョ現象」が起り、ココア生産国が悪天候に見舞われて供給量が逼迫(ひっばく)するとの見方が広がっていることも、ココア相場を下支えした。

エルニーニョ現象が起きれば、米国や南米で大雨となり洪水が発生、東南アジアやオーストラリアでは乾燥天候になる恐れがある。ロンドン市場のココア先物は堅調に推移、7月きりは3ポンド（0.2%）高の1896ポンドで終了した。一時1898ポンドまで上昇する場面も見られた。

【3月20日（木）】両市場とも下落

ニューヨーク、ロンドン両市場ともに下落。最大産地コートジボワールでは降雨予想を受け、収穫見通しが上向く一方、最近、上値が伸び悩んだことから利食い売り出た。

ニューヨーク市場の5月きりは51ドル（1.7%）安の2974ドルと、反落した。

17日に3039ドルと、2年半ぶりの高値を付けた後、18日は3033ドル、19日は3032ドルと、上値が伸び悩んだことが、テクニカル的にマイナスにとらえられた。

ある市場関係者は「この水準が大きなハードルとなっている。長期的な地合いは強いものの、上値を追うには材料が必要だ」と語った。ロンドン市場の7月きりは16ポンド（0.8%）安の1880ポンドで引けた。カメルーンでは2月の圧砕量が前年比でやや増加した。今シーズン、16日までのブラジル主産地の入荷量は前年同期比23%減少した。

【3月21日（金）】両市場とも続落

ニューヨーク、ロンドン市場ともに続落した。ディーラー筋によると、降雨予想を受けて、主要産地コートジボワールの収穫見通しは改善される見込み。

ニューヨーク市場の5月きりは17ドル安の2957ドルで終了した。ロンドン市場の7月きりは1ポンド安の1879ポンドで引けた。

2、カメルーン：農家からのカカオ豆買い付け価格は堅調(3/17)

農家の現地調査によると、カカオ豆の供給不足が原因となりカメルーンの4つの主生産地において農家からの買い付け価格は依然として高い。カカオ豆はカメルーンの主要な輸出作物であり、カメルーンの中央部と南西部だけで同国のカカオ生産高の40%を占めている。南部では15%、東部では5%と続く。

カメルーンは世界で5番手のカカオ生産国であり、収穫期は8月1日から翌年の7月31日である。メインクroppは10月～1,2月で、ライトクroppは4,5月～7月となる。

「カカオ豆の価格は、供給不足により先月の1,000CFAフラン/kgから今月、1,150CFAフラン/kgへと上昇した。」とカメルーン南部のSangmelimaの農業組合の首長が述べた。

また、彼の所見は同じく南部のEbolowaのカカオ農家も同じであった。この農家も「カカオの価格はカカオ豆の不足が原因で975CFAフラン/kgから1,100CFAフラン/kgへと上昇した。しかし多くの買い付け業者や輸出業者は依然としてDoualaから買っている。」と述べた。

下記は3月17日時点での、カメルーンのカカオ豆の農家からの買い付け価格である。

(単位：CFA フラン、1\$=471.0640 CFA フラン)

地域	3月	2月
Mamfe (South-West)	1,000	950
Konye (South-West)	1,050	1,000
Mbonge (South-west)	1,100	1,025
Muyuka (South-West)	1,100	1,030
Kumba (South-West)	1,100	1,050
Bafia (Centre)	1,200	1,200
Emana (Centre)	1,190	1,165
Mbalmayo (Centre)	1,160	1,150
Ebolowa (South)	1,100	975
Sangmelima (South)	1,150	1,000
Bertoua (East)	875	850
Yokadouma (East)	810	800

3、コートジ：カカオ豆着荷量、112万8,000トン(3/18)

輸出業者が17日公表した推計によると、2013～14年度（13年10月～14年9月）のコートジボールの主要2港（アビジャン港、サンペドロ港）のカカオ豆着荷量は3月16日時点で約112万8000トンと、前年同期（99万8000トン）を上回った。3月10～16日の2港への着荷量は約1万4000トンとなり、前年同期の1万9000トンを下回った。

4、コートジ：新たな値下げ価格にも関わらず、ミッドクロップの輸出に危機感か(3/18)

コートジのカカオ豆輸出業者は、同国の市場委員会がカカオ豆の価格を下げて、良好な価格になったにも関わらず、ミッドクロップの買い付けを制限している。農家の所得水準の改善と農地への再投資促進を目指したカカオ産業の改革のもと、コートジはすでに2013/2014cropのカカオ集荷分の数量については全て先物での販売を終了している。

コートジのコーヒー・ココア委員会(CCC)は農家から買う際の価格を政府保証とし、kgあたり725CFAフランの値段をつけた。これはCIF価格の60%ほどの価格である。

さらにCCCは昨年12月には30CFAフランの値下げを提案していたが、現在はミッドクロップのCIF価格からkgあたり40CFAフランの値下げを提案しており、これによってコートジのカカオ豆輸出業者が、コートジ国内に在庫されているからカカオ豆を買い付けることを促すはずであったが、昨年はマージンとして58CFAフランであったこともあり、40CFAの値下げ（＝マージン）ではあまり良い効果がみられない。

アビジャンのカカオ製品輸出業者は「圧砕業者はすでに十分なストックを抱えており、何かしらのボーナスがもらえない限りはさらなる買い付けはしないだろう。我々はこの改革計画のもとでは全ての数量に対して買付けすることはできないだろう」と述べた。ミッドクロップのカカオ豆はメインクロップと比較し一般的に小さく、国際市場のもとで価格は低い。輸出業者によるとミッドクロップの生産高は昨年の37万8,000トンであったのに対し、今年は35万トン～37万5,000トンであるとの見込みである。

5、カメルーン：圧砕業者のカカオ豆買い付け量は微増(3/21)

カメルーンのカカオ・コーヒー委員会(NCCB)はカメルーンの農家が2月の終わりまでに、同国の圧砕業者に対して、3万299トンのカカオ豆を販売したことを伝えた。昨年と同時期と比較すると、わずかな上昇となった。また、カメルーンは同国のカカオ豆を2万8,414トン購入しており昨年と同水準となった。

カメルーンの2大圧砕業者の一つである Sic-Cacaos（スイスのチョコレート製造メーカー・バリーカレポー社の子会社）は、2月に361トンのカカオ豆を買い付けた。1月の475トンより114トンだけ減少した。同社の今シーズンを通してのカカオ豆買い付けは2万9,504トンとなり、昨年の2万6,611トンより289トンの上昇となった。

南アフリカのタイガーブランドの関連企業である Chococam は2月度のカカオ豆買い付けは実績がなく、シーズン始まり以来、買い付け量は合計で795トンのまま伸びていない。

Sic-Cacaos ではカカオ豆からココアケーキやココアパウダーやカカオマスを製造し、中部アフリカ経済通貨共同体に参加する6か国に販売しており、一方の Chococam はチョコレートを製造し、カメルーン国内で販売している。カメルーンのカカオ豆の収穫期は8月1日から翌年の7月31日までとなり、メインクロップは10月～1,2月であり、ライトクロップは4,5月～7月である。

6、アジア：チョコレート製造メーカーはバター買いに動く、一方パウダー価格は下落(3/21)

アジア市場において、チョコレート製造メーカーは直近の船積み分でココアバターを買いに動いた。一方でココアパウダーは低価格で取引されている。シンガポールのディーラーは「ココアバターレシオについては大きな変化があったとは言えない。実際の取引では2.4～2.45で取引が行われている。また、競合他社の話では、パウダーの在庫を一掃するために、USD1,800からUSD2,000/MTで値段を据えているということだ。」と述べた。先週、圧砕業者はココアバターを2.42～2.45のレシオでオファーし、パウダーに関してはUSD1,800～USD2,000/MTで値段を定めた。他のディーラーは「ココアバターは低くても2.3となるだろう。2月のバレンタイン後ではあるが、チョコレート製造メーカーはイースターや下半期に向けての使用分を買い付ける。」という。また彼は「我々は、マレーシアの競合が価格が安いときに製造したパウダーの古い在庫を処分するために、積極的にパウダーを販売していることを聞いている。」と述べた。

7、米カーギル、欧州のカカオ豆加工能力を再拡張＝高級チョコ需要に対応(3/20)

米穀物商社大手カーギルは19日、高級チョコレート需要増加への対応として、フランスのルーアン、ドイツのベルリンのカカオリカー工場に1000万ユーロ（1390万ドル）を投資し、カカオ豆加工能力を拡張したことを明らかにした。拡大規模は明らかにしなかった。

カーギルはわずか3カ月前、ベルギーに保有する同社欧州最大のチョコレート工場の生産能力を2倍に拡大するため、4800万ドルの投資計画を発表したばかり。カカオリカーは、カカオ豆を磨砕したもので、チョコレートバーの原料となるココアバターや、クッキーの原料となるココアパウダーに加工される。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp